



## 市民施設見学会が終了しました



平成 30 年 7 月 31 日（火）、ふらの市民環境会議と富良野市主催の環境関連施設見学会が開催され、ふらの市民環境会議の会員 6 名と市民 21 名、事務局 2 名が参加しました。当日は 35℃を超える猛暑日となり熱中症を心配しましたが、参加者全員が体調を崩すことなく見学会を終えました。

今回の市民施設見学会は、「ハイランドふらのRDFボイラー」と「トドックエコステーション・コープさっぽろエコセンター」を見学して、「リユース・リサイクル、再生エネルギー、植樹、食品ロスについて学び、環境にやさしいライフスタイルについて考える機会となりました。

「いわみざわ公園バラ園」ではガーデニングを通して潤いのある快適な暮らしと美しいまちづくりについて学びました。

また、富良野道路北の峰インターチェンジで、開通前の道路工事現場を見学しました。

### ハイランドふらのRDFボイラー見学の様子

富良野市市民生活部環境課 関根課長から、ハイランドふらのRDFボイラーの設備概要について説明を受けました。

この施設は、ハイランドふらのに富良野市が製造する固形燃料を使用するボイラーで、熱供給することで重油燃料コスト削減、CO2 削減による地球温暖化防止、エネルギーの地産地消による地域循環型社会形成を目指すことを目的に導入されました。リサイクルセンターで製造された RDF 燃料がトラックで運搬され貯留ホッパーに貯まっている様子を見学しました。

富良野市民がごみを分別して作られる固形燃料からハイランドふらのの温泉が暖められていることが解り、今後入浴した時には感慨深い思いにひたるのではないのでしょうか。





## 江別トドックエコステーション・エコセンター見学の様子

生活協同組合コープさっぽろエコセンター 川崎清嗣センター長から、環境教育施設「トドックエコステーション」で映像や木製模型「エコ・わっか」で施設概要やリサイクルの流れの説明を受け、同じ敷地内にあるエコセンターへ移動して、事業内容及び分別・再生処理工程についての説明を受けました。

この施設は、365日稼働しており、一日平均88トンの資源物が運ばれてきます。再利用加工しやすいように資源物を圧縮したり、溶かしたりして固める減容処理をして、専門業者へ売却されます。

天ぷら油は濾過して施設のストーブやボイラーの燃料などに再利用されます。

また、古着・装飾雑貨やぬいぐるみは回収後、専門業者を通じてカンボジアへ渡り、現地のリサイクルショップ店で販売され、特に子供服やぬいぐるみが喜ばれているそうです。





## いわみざわ公園バラ園見学の様子

好天に恵まれて35℃まで気温が上がる、猛暑日になりました。

約4ヘクタールの敷地内に、バラとハマナスを合わせて約600品種8800株が植えられています。

バラ園では、子供たちやアレルギーをお持ちの方でも、安心してバラを鑑賞していただくために、化学農薬を使用しない育成管理に挑戦する取組みとして、虫が寄りつきにくいミントなどのハーブをバラ園の縁に植えています。

これらの植物はコンパニオンプランツと呼ばれ、ヨーロッパでは同様に、パセリやニンク等が一般的に植えられているそうです。

参加者のみなさんが思い思いにバラ園内を散策して、心癒される時間を楽しみました。



## 富良野道路北の峰 | C道路工事現場見学の様子

地域高規格道路「旭川十勝道路」(旭川―占冠間、120キロ)のうち富良野道路は学田～上五区までの8.3kmで今年度中に開通予定のため、急ピッチで舗装工事の真最中での道路工事現場見学会でしたが、旭川開発建設部富良野道路事務所 松久所長、菊地工務課長からパネルを使用して事業概要について説明を受けました。

国道38号、237号が交差し、観光地のため行楽期には著しい交通混雑が発生していましたが、富良野道路の整備により、市内中心部への通過型交通や大型車両流入が抑制されて交通分散効果による交通円滑化が図られます。

北海道縦貫自動車道及び北海道横断自動車道と接続することにより、広域交流ネットワークを形成し、当該地域の交通円滑化、地域間連携や広域的な人流・物流の活性化に寄与する路線になります。

参加者からは、「開通後は自動車で通行以外は入れない高速道路へ、立ち止まって見学することが出来て、貴重な体験が出来た。」と感想を話されていました。

